

# 委員会視察報告

## 議会運営

八月九日から十一日までの日程で、埼玉県久喜市及び新潟県新発田市における「議会改革に対する取り組み」として議会基本条例を中心に視察を行った。

久喜市は平成二十二年三月に新たに合併したばかりであったため、旧久喜市議会の取り組みについて説明を受けた。

旧久喜市議会では平成十一年から議会活性化検討委員会を設け、一般質問での一問一答方式の導入等多くの事項が実施されてきた。その委員会の検討事項の一つとして議会基本条例の制定について協議され、市民の声も反映させながら平成二十一年六月に議会基本条例を制定した。

その特色として、政務調査費の内部審査及び監査があげられる。政務調査費に対する審査機関として政務調査費審査委員会を設置し、調査費についての調査や協議を行っている。

一方、新発田市では、平成二十一年二月に議会基本条例を制定した。

その特色として、議会報告会の開催、一問一答方式の導入があげられる。特に議会報告会については、昨年初めて開催し、全議員が分担任して市内の各会場で議会の状況等を報告した。条例制定後、一問一答方式の導入に伴う議論の活性化や報告会開催により市民に対する説明責任が果たせるとともに、議会に対する期待や要望を市民から聞くことができたという意見が議員からあつたとのことである。

今後、両市議会の取り組みを参考にしながら当市議会においても、議会活性化に向けて協議を行っていく必要があると考える。



新発田市議会議場にて

## 総務文教



稚内市役所前にて

七月二十七日から三十日まで三泊四日の日程で稚内市、小樽市、函館市を視察してきた。

その中から、稚内市の学方向上対策の先進事例を紹介する。

稚内市では、核家族化や少子化により「家庭の教育力」の低下が課題となつていたことから、平成十八年から構造改革特別区域基本方針に基づき市費採用教員を任用している。採用は小学校教諭八名、平成二十二年度からは、中学校へ英語教諭二名も配置した。この結果、個に応じた学習指導が行うことができ基礎・基本の定着が図られてきたとのこと。

## 観光経済

七月十三日から十六日までの日程で、山口県周南市の「いのち育む里づくり事業」、下関市の「下関フィルム・コミッション」、広島県呉市の「携帯観光ナビ事業」及び「大和ミュージアムと中心市街地活性化策」について視察を行った。

周南市では市の面積の七割を占める中山間地域を「いのち育む里」と称し、活力を生み出す个性的で魅力的な地域づくりに取り組む団体等を支援する事業を行っているっており、今年度は応募があつた中から四事業を採択し、新たな加工品の開発等に取り組むということであつた。

今回の視察において学んだことを今後の市政に反映させていきたい。



呉市にて

## 民生福祉



亀岡市にて

七月二十一日から二十三日までの日程で、京都府亀岡市と広島県尾道市を調査視察した。

その中から亀岡市の「セーフコミュニティの取り組み」を紹介する。

亀岡市は平成二十年三月にセーフコミュニティの認証を我が国で初めて取得している。セーフコミュニティは成果の検証が難しいと言われているが、亀岡市は市内医療機関の協力を得て実施したとのことだ。今後の課題として再認証も日本で最初となるため、その準備とリーダーとして活躍する人材の育成が急務であるとのことだ。当市においても、普及啓発運動、人材育成の面を参考としたい。

## 建設

七月十三日から十六日までの日程で、北海道シニツクバイウエイ支援センター、帯広市、網走市にて視察を行った。

その中で、網走市の「汚泥の有効活用」については、汚水処理で発生する汚泥を一〇〇％再利用し、堆肥として農地へ還元しており、一般市民にも無料配布して好評を得ているとのこと。

畜産業が少なく堆肥の原料が不足していたことなどから始めた事業であり、経費は汚水汚泥として処理する場合と比較すると三分の一程度。当市の汚泥処理は、地元業者に委託し、一部は堆肥化され、他は廃棄処理されていることから、当該取り組みは大変参考になると思われる。



シニツクバイウエイ支援センターにて